

明治三十年八月

	俸給	聴費	修繕費	旅費	雑給雑費	學生費	合計	臨時費	増設費	通計
美術院	二四、六〇〇	四六、五〇〇	一五〇	三〇〇	一、五〇〇	九、三六〇	四〇、五六〇	九八、〇〇〇		
東京高等美術学校	三八、三二六	一〇、七四三	二七七	四五〇	五、二七四	一、八〇〇	五七、八七〇	一四、四〇〇		
京都高等美術学校	二二、五六〇	七、七四〇	二〇〇	三〇〇	三、〇〇〇	一、二〇〇	三五、〇〇〇	六二、〇〇〇		
							一三五、四三〇	二七四、四〇〇		

③ 制服改正

この件については年報その他学校当局作成文書中に記載がないが、大村西崖主宰の『美術評論』第一号(三十年十一月)に次のように記されている。

○東京美術学校にては、制服の常時に不便なるを以て、着用を厲行し難きが爲に、そをたゞ禮服となし、このごろ別に一種の略章を制して、常にはこれを職員及生徒に着けしむといふ。その形はところ／＼蟻結びにしたる紐にて、昔の冠に付けたる日陰のかつらより案出したるものなるよし。職員のは紫にて二條、生徒のは青にて一條。右の肩より前後に垂れて、下端はこれを結び若くはこれを帯に挿む。

西洋画科設置以後、校内の空気は従来の制服、制帽とそぐわないものとなったために、このような改正措置がとられたのではないかと思われる。その後、岡倉校長の辞職を待っていたかのように、三十一年七月十五日には制服、制帽の全面的改正が行われる。

④ 日本絵画協会第二回、第三回共進会

明治三十年三月十五日から翌月三十日まで上野公園竹の台の旧博覧会第五号館で日本絵画協会第二回共進会が開催された。既述(336頁)のように、今回は日本画革新派のみの出品となり、同会の本来の趣旨が明確に示された展覧会となった。そして、四月六日に褒賞授与式が行われ、下村観山「光明皇后」(銀牌第一席、菱田春草「拈華微笑」(同第二席)、竹内棲鳳「廢園春色」(同第三席)が高位入賞し、西郷孤月「四季花鳥」のうち「春」、横山大観「無我」、本多天城「蘇武」、寺崎広業「昭君怨」、川合玉堂「孟母断機」、山田敬中「美音」、尾形月耕「武將詠花」、小堀鞆音「武士」、今尾景年「猫」、野村文孝「嵐山風雨」が銅牌を授与された。

次いで同年十月二十五日より十二月七日まで同所で第三回共進会が開催され、十一月二十六日に褒賞授与式が行われて、下村観山「嗣信最期」(特別銀牌)、小堀鞆音「常世」(銀牌)、寺崎広業「菊」(同)が高位入賞し、川合玉堂「家鴨」、山田敬中「平和」、大出東阜「菊花争雀」、本多天城「羅浮」、竹内棲鳳「枯野」、横山大観「聴